

日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER



No. 176
2025/03/31

目次

| | |
|---|----|
| 日本中東学会会長退任にあたって | 2 |
| 理事会報告 | 3 |
| 第 21 期評議員・理事選挙結果報告..... | 4 |
| 日本中東学会第 41 回年次大会参加申し込み方法、および暫定プログラム | 5 |
| アジア中東学会連合（AFMA）大会の報告..... | 13 |
| 『日本中東学会年報（AJAMES）』編集委員会報告..... | 31 |
| 寄贈図書..... | 33 |
| 連絡先をご存じないですか | 33 |
| 事務局より | 34 |

日本中東学会会長退任にあたって

第19期、第20期と2期4年間にわたり、会長をつとめてまいりましたが、このたび任期を終え、会長職を退任する運びとなりました。会員の皆さん、そして第19期・20期理事会メンバー、とくに19期の堀拔事務局長、20期の小澤事務局長には、在任中多くのご支援・ご協力を賜りました。心より御礼申し上げます。

この4年を顧みると、新型コロナウイルス感染拡大と収束、アフガニスタンにおけるターリバーン政権の復活、パレスチナ・ガザをめぐるイスラエルとハマースの武力衝突、イスラエルとレバノン・ヒズバラーの武力衝突、スーダンにおける内乱、そしてシリアにおけるアサド政権崩壊などなど、中東情勢はめまぐるしく変化してきました。文化面をみても、UAE・ドバイでの万博、カタールでのワールドカップなど世界的なイベントも中東で開催され、また、経済・エネルギー面では国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）がエジプト、UAEで開催されました。

これらの事件・出来事は、われわれ中東研究者にとってもけっして他人事ではありません。戦乱や治安の悪化で中東諸国への留学や現地調査が困難になったこともそうですし、欧米ではイスラエルとパレスチナの対立が学術的な研究にも暗い影を落とすようになっています。そして、何より、これらの事件で多数の民間人が犠牲になってしまったのは筆舌に尽くしがたい悲劇であり、日本中東学会でも理事会や各会員が事態収束に向け、いろいろな活動をしてきました。

現実の中東地域における政治・経済・文化的な環境が劇的に変化し、さらにAIなどの進化にともない、中東研究や中東理解を取り巻く知的な場も大きく変容を遂げています。学術的な視点からこうした変化を見つめ、議論をさらに深めることが、ますます求められています。そして、実際、日本中東学会会員の皆さまのご尽力により、内外における研究交流の促進、新たな知見の発信、そして次世代研究者の育成などにおいて、着実な前進を遂げることができました。2024年12月に同志社大学で開催されたアジア中東学会連合（AFMA）第15回大会はその具体的な成果といえるでしょう。

さて、そのAFMA大会実行委員会で委員長をつとめていただいた森山央朗同志社大学教授が第21期日本中東学会会長に就任することとなりました。森山教授にはAFMA大会実行委員長に引きつづき、面倒な仕事ををお願いすることになってしまい、心苦しいばかりですが、日本中東学会をさらなる高みへと導いてくれることと確信しております。会員の皆さまにおかれましては、新会長を支え、学会の発展にご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

日本中東学会会長は歴代、大学や国立研究機関に所属する研究者で、私のように、民間のシンクタンクに所属する研究者が会長になるのははじめてでした。1期目の会長就任の挨拶で、そのことについて触れ、日本の中東研究のすそ野がそれだけ広がってきたためではないかと指摘した記憶があります。そのすそ野をさらに拡大する使命を果たせたかとなると、はなはだ心許ないですが、日本中東学会が今後も中東に関心を有する多様な専門分

野、職種、業種の人たちが参加できる場になることを期待しています。

2025年は、日本中東学会設立40周年という節目の年に当たります。今後も、日本と中東を結ぶ学術的な架け橋として、日本中東学会がますます発展し、日本における中東理解がより深まることを願ってやみません。私自身も、これからは一会員として、引きつづき学会活動に関わりながら、中東研究の発展に努めてまいります。新しい体制下、日本中東学会がさらなる飛躍を遂げることを心より期待しております。

最後にこれまでのご支援にあらためて感謝を申し上げますとともに、皆さまのますますのご活躍とご健勝をお祈りし、退任の挨拶とさせていただきます。

2025年3月27日
日本中東学会会長 保坂修司

理事会報告

【2024年度新旧合同理事会】

日時：2025年3月6日（木）18:00～19:30（Zoomによるオンライン会議）

出席者（五十音順・敬称略）

第20期：秋葉 淳、保坂 修司、錦田 愛子

第20・21期：五十嵐 大介、大川 真由子、大塚 修、小澤 一郎、後藤 絵美、
佐藤 健太郎、嶺崎 寛子、森本 一夫

第21期：鈴木 啓之、竹村 和朗、鶴見 太郎、森山 央朗、横田 貴之、
渡邊 祥子

欠席（いずれも委任状あり）

第20期：岩崎 えり奈、山口 昭彦

第20・21期：熊倉 和歌子、福田 義昭、菊地 達也

〔報告事項〕

1. 第41回年次大会の進捗状況について報告があった
2. 評議員・理事選挙の実施についての報告があった
3. AJAMES編集委員会の活動について報告があった

〔審議事項〕

1. 2025年度AJAMES編集委員会活動計画について審議と承認を行った
2. 新旧理事による担当業務の説明と引き継ぎがなされた

【メール審議（2024年12月19日～2025年3月11日）】

1. 2024年12月13日 新入会員申請について

- 2名から新入会員申請があり、メールで稟議の結果、12月20日に申請内容を承認した
2. 2024年12月26日 国際文献社との次年度の契約について
国際文献社より、次年度の契約に際して、業務委託外作業費を3,000円/時間から5,000円/時間に引き上げたいとの申し出があった。
この申し出を承認することについて、メールで稟議の結果、2025年1月7日に承認した
 3. 2025年1月14日 理事選挙開票作業について
選挙管理委員に欠員が生じたため、一時的に開票作業を中止した。欠員が出た状態でその後の作業を進めることについて、メールでの稟議の結果、1月18日に承認した
 4. 2025年1月23日 新入会員申請について
2名から新入会員申請があり、メールで稟議の結果、1月30日に申請内容を承認した
 5. 2025年1月24日 中東学会会員のジェンダー比率調査について
人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）よりジェンダー平等状況の把握のための調査に関する依頼があった。これに対し会員情報をもとに数値等で回答することについて、メールで稟議の結果、1月28日に承認した
 6. 2025年2月13日 会費特例申請について
5名から会費特例申請があり、メールで稟議の結果、2月21日に申請内容を承認した
(熊倉和歌子 ニューズレター・書記担当理事)

第21期評議員・理事選挙結果報告

評議員選挙は、Webでの投票期間を11月22日（金）10時～12月15日（日）17時、郵送での投票期間を12月12日（木）必着として実施しました。12月17日（火）に開票作業を行い、学会細則IX-2により、第21期評議員60名を以下の通り確定しました。有権者377名のうち、投票者数126名（うち有効票126、無効票0、白票0）で、投票率は33.4%でした。

<第21期評議員（任期：2025年4月1日～2027年3月31日）>

青山 弘之 赤堀 雅幸 秋葉 淳 飯塚 正人 五十嵐 大介
 石黒 大岳 磯貝 真澄 井堂 有子 岩坂 将充 岩崎 えり奈
 岩崎 葉子 岩本 佳子 上野 雅由樹 江川 ひかり 大川 玲子
 大川 真由子 大河原 知樹 大塚 修 大稔 哲也 岡崎 弘樹
 小澤 一郎 小野 仁美 粕谷 元 勝沼 聡 亀谷 学 菊地 達也
 熊倉 和歌子 栗田 禎子 黒木 英充 黒田 賢治 後藤 絵美
 桜井 啓子 佐々木 紳 佐藤 健太郎 澤井 一彰 末近 浩太
 鈴木 啓之 高尾 賢一郎 高橋 圭 竹村 和朗 辻上 奈美江

鶴見 太郎 東長 靖 鳥山 純子 長岡 慎介 長沢 栄治
中町 信孝 錦田 愛子 林 佳世子 保坂 修司 堀井 聡江
嶺崎 寛子 森本 一夫 森山 央朗 山岸 智子 山口 昭彦
山本 薫 横田 貴之 吉村 武典 渡邊 祥子 (敬称略・50音順)

評議員選挙に続き、新評議員による理事選挙を、Webでの投票期間を12月23日10時～1月7日(火)17時として実施しました(郵送投票の有権者はなし)。なお、会則第9条の規定により、岩崎えり奈、秋葉淳、錦田愛子、菊地達也の各会員は理事選挙の被選挙権を有しないため、あらかじめ理事候補から除外されました。1月23日(木)に開票作業を行い、第21期理事15名を以下の通り確定しました。投票数41名(うち有効票41、無効票0、白票0)で、投票率は68.3%でした。

<第21期理事(任期:2025年4月1日～2027年3月31日)>

五十嵐 大介 大川 真由子 大塚 修 小澤 一郎 熊倉 和歌子
後藤 絵美 佐藤 健太郎 鈴木 啓之 竹村 和朗 鶴見 太郎
嶺崎 寛子 森本 一夫 森山 央朗 横田 貴之 渡邊 祥子
(敬称略・50音順)

(小澤一郎 事務局長)

日本中東学会第41回年次大会参加申し込み方法、および暫定プログラム

日本中東学会第41回年次大会は、2025年5月17日(土)および18日(日)に開催されます。例年と同じく、大会1日目に公開講演会と総会を、2日目に研究発表・企画セッションを行います。会場は、2日とも北海道大学札幌キャンパスです。大会1日目はハイフレックス方式(対面・オンライン併用)、2日目は対面方式を予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

1. 参加申し込みについて 締切:5月2日(金)

- 公開講演会(大会1日目)は、どなたでも無料・登録不要で参加できます(オンライン参加の方に限り、当日までに参加登録をお願いします)。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_FvJWkVrxSrecMULp5t_jg



- 個人研究発表・企画セッション（大会2日目）と懇親会（大会1日目）への参加は、事前申込と参加費の事前支払い（銀行振込）が必要です。大会参加費は **1,500 円**、懇親会費は 一般 7,000 円、学生 4,000 円 です。下記の事前申込フォームからお申込みください。
- 当日の会場では参加申し込みや大会参加費・懇親会費の支払いは受け付けません。 領収書は当日受付でお渡しします。

※ 事 前 申 込 フ ォ ー ム :

<https://forms.gle/SoxmQYEUNDtyLXwE7>



振込先：

銀行口座：ゆうちょ銀行 店名（店番）：二七九（ニナナキュウ）店（279）

（当座）口座番号：0104239

口座名称：日本中東学会第41回年次大会実行委員会（ニホンチュウトウガ ヲカダ インジ ユウカイセイジ）

代表：末森 晴賀

*振込手数料は振込者負担でお願いします

2. 発表要旨集のオンライン配布とwifiの利用について

- 第41回年次大会では、印刷した研究発表要旨集や各自の発表資料は会場で配布せず、大会用ポータルサイトにアップロードします。
- 会場では eduroam の利用が可能です。eduroam アカウントをお持ちでない方には、ゲスト用 wifi への接続方法をご案内しますので、受付でお申し出ください。
- パソコンやタブレット等、接続用機器は各自でお持ち込みください。（研究発表用のパソコンも各自ご持参ください。使用可能なディスプレイケーブルについては別途発表者に連絡します。）

3. 託児所・託児サービス・就学児休憩室について

- 大会1日目、2日目ともに、託児所（未就学児対象）の設置と託児サービスへの費用補助を予定しています。
- 大会当日に託児所の利用を希望される方は、**4月18日（金）**までに、大会実行委員会事務局まで必ずご連絡ください。その際に、必要な手続きについてお伝えします。託児所の費用につきましては、託児所会計からの費用を充当する予定ですが、利用者の方に利用時間に応じて多少の費用負担をお願いいたします。
- 託児サービスへの費用補助につきましては、お子様一人につき一人あたり原則 5,000 円を上限に費用を補助します。ご利用を希望される方は、**5月9日（金）**までに、大

会実行委員会事務局宛にご連絡をお願いします。また、大会終了後 1 週間以内に利用の詳細と利用がわかるもの（領収書など）を事務局までメールにてご送付願います。

- 大会 1 日目、2 日目ともに、就学児休憩室の設置を予定しています。ご利用を希望される方は、当日受付でお申し出ください。

4. 宿泊について

- 札幌駅や大通公園周辺に複数の宿泊施設があり、北海道大学へのアクセスも便利です。近年、混雑していて予約がとりづらいことがあるので、早めの予約をおすすめします。なお、大会実行委員会では宿泊の斡旋等はおこなっておりません。

5. その他

- 大会 2 日目の昼食につきましては、キャンパス内では大学正門近くの「カフェ de ごはん」や「北大マルシェ Café&Labo」が営業予定ですが、他団体による貸切などの場合は利用できません。大学や札幌駅周辺には飲食店が多数ありますので、そちらもご利用ください。会場にお弁当を持参いただくことも可能です。

6. 日本中東学会第 41 回年次大会暫定プログラム（2025 年 3 月 17 日現在）

日時：2025 年 5 月 17 日（土）・18 日（日）

- 5 月 17 日（土）：公開講演会（ハイフレックス）、総会（ハイフレックス）、懇親会
- 5 月 18 日（日）：個人研究発表・企画セッション

会場：北海道大学札幌キャンパス（北海道札幌市北区北 10 条西 7 丁目）

<https://www.hokudai.ac.jp/bureau/property/hss/access/>（会場周辺）

https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/campusmap2024_04.pdf（キャンパスマップ）

JR 札幌駅北口から徒歩約 7 分、地下鉄南北線「北 12 条駅」徒歩約 8 分

- 公開講演会・総会：人文・社会科学総合教育研究棟（W 棟）2 階 W203
- 懇親会：ホテルマイステイズ札幌アスペン（札幌市北区北 8 条西 4 丁目 5 番地）
- 個人研究発表・企画セッション：人文・社会科学総合教育研究棟（W 棟）

第 1 日目：2025 年 5 月 17 日（土）

14:00–16:30 公開講演会（*ハイフレックス方式：対面と Zoom の併用）

17:00–18:00 日本中東学会総会（*ハイフレックス方式）

19:00–21:00 懇親会

【公開講演会】

「海がつなぐ北ユーラシアと中東」

中東地域は、古来、海を介した周辺諸地域とのつながりの中で歴史を営んできました。

西に広がる地中海や南に広がるインド洋を媒介とする交流はしばしば話題にのぼりますが、この公開講演会ではカスピ海と黒海という北の海に焦点を当てます。海の向こう側の北ユーラシアの視点に立つ講演二つと、海の南方の中東の視点からのコメント二つを通して、中東地域を捉えなおしたいと思います。

全体司会：佐藤健太郎（北海道大学）

講演者：諫早庸一（北海道大学）

「ダンテのアノマリ（1315～22年）と黒海世界：モンゴル、ジェノヴァ、マムルーク」

講演者：長縄宣博（北海道大学）

「愛憎の垣塙：20世紀初頭のカスピ海の港町」

コメントータ：堀井優（同志社大学）、黒田卓（東北大学）

質疑応答・全体討論

主催：日本中東学会

共催：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

第2日目：2025年5月18日（日）

09:30–11:50 個人研究発表

11:50–13:00 昼休憩

13:00–16:10 企画セッション／個人研究発表

*氏名の右側の（ ）内は所属、Jは大学院生を示す。

【企画セッション Panel Sessions】

企画セッション Panel Session 1 13:00–14:30（会場 Venue：W201）

Reconsidering MENA Political Change, Conflict and Security “from Below”

企画責任者・司会 Organizer & Chair：

Kota Suechika (Ritsumeikan University)

発表者 Presenters：

Chin-Kuei Tsui (National Chung Hsing University), “The Collapse of Bashar al-Assad’s Regime: Geopolitical Impacts in the Middle East”

Takuro Kikkawa (Ritsumeikan Asia Pacific University), “Water and security history of Jordan: The case of international cooperation and conflict in the early 1960s over the Yarmouk River”

Kota Suechika (Ritsumeikan University) and Dai Yamao (Kyushu University), “Measuring Public Support for Armed Non-State Actors at War: A Comparative Study of the Cases of the “Axis of Resistance””

企画セッション Panel Session 2 14:40-16:10 (会場 Venue : W201)

The Gulf States and Trump's Second Presidency

企画責任者・司会 Organizer & Chair :

Abdullah Baabood (Waseda University)

発表者 Presenters :

Matthew Gray (Waseda University), "The US and the Gulf in Trump's Second Term: Five Key Issues and Three "Black Swans""

Steven M. Wright (Hamad bin Khalifa University), "Trump's Digital Dollar Agenda: An Analysis of the Prospects for Tokenised Commodities and its Implication for GCC Countries Foreign Relations"

Adel Abdel Ghafar (Middle East Council on Global Affairs), "Great Power Competition in the GCC Under Trump 2.0: Prospects and Challenges"

Koji Horinuki (The Institute of Energy Economics), "Gulf Geopolitics and Challenges for Conflict Mediation Mechanisms in the Era of Trump 2.0"

Kazuto Matsuda (Middle East Council on Global Affairs), "The Gulf States and Trump's Second Presidency: Opportunities and Challenges for Japan"

企画セッション Panel Session 3 13:00-14:30 (会場 Venue : W202)

中東の政治変動とエネルギーのネクサス

企画責任者・司会 Organizer & Chair :

小林周 (日本エネルギー経済研究所)

発表者 Presenters :

豊田耕平 (東京大学 J) 「湾岸アラブ諸国における脱炭素化と技術提携」

高橋雅英 (中東調査会) 「中東域内のエネルギー依存関係：政治的危機と天然ガス供給の関係性」

小林周 (日本エネルギー経済研究所) 「北アフリカにおけるエネルギー開発：域内・国際政治との連動」

企画セッション Panel Session 4 14:40-16:10 (会場 Venue : W202)

「フェミニズム」を再考する：ムスリム・コミュニティとそれを取り巻く実践現場から

企画責任者 Organizer :

後藤絵美 (東京外国語大学)

司会・ディスカッサント Chair & Discussant :

高橋圭 (東洋大学)

発表者 Presenters :

後藤絵美 (東京外国語大学) 「ムサーワーの知識構築をめぐる実践から「イスラミック・フェミニズム」を考える」

村上薫 (アジア経済研究所) 「トルコのフェミニズムとクルド女性運動：関係の模索と対

話の試み」

鷹木恵子 (桜美林大学) 「女性イマームとフェミニズム：パリの二つの男女混合モスクの事例から」

保井啓志 (同志社大学) 「10.7 以後のイスラエルにおける性的少数者の権利運動とその正当性をめぐる闘争」

【個人研究発表】

第1部会 (会場 Venue : W101)

- 1-1) 09:30-10:10 棚橋由賀里 (京都大学) 「枢軸と鐘：15-16 世紀モロッコにおける聖者概念」
- 1-2) 10:20-11:00 私市正年 (学会員) 「サハラ交易都市タマンティートの繁栄とイスラーム法体制確立：al-Maghili の扇動によるユダヤ教徒虐殺事件の再考」
- 1-3) 11:10-11:50 シェッターデイ アキル (慶應義塾大学) 「モロッコの旧市街とインフォーマル居住地を通して考える都市計画の脱植民地化」
- 1-4) 13:00-13:40 桜井啓子・沈雨香 (早稲田大学) 「カタール人の配偶者選択における学歴意識」
- 1-5) 13:50-14:30 児玉恵美 (日本学術振興会) 「レバノン内戦の行方不明者をめぐる記憶：ドルーズ派女性の日常から」
- 1-6) 14:40-15:20 望月葵 (公立小松大学) 「中東の難民ガバナンスの変容：シリア難民危機以後のヨルダンに着目して」
- 1-7) 15:30-16:10 幸加木文 (上智大学) 「欧州のトルコ系移民・難民団体の現状とその影響：トルコの人権状況に照らして」

第2部会 (会場 Venue : W102)

- 2-1) 09:30-10:10 村山春奈 (学会員) 「ファーティマ朝期における嘆願書の役割：弱者救済の側面に注目して」
- 2-2) 10:20-11:00 三橋咲歩 (早稲田大学 J) 「マムルーク朝期エジプトにおける災禍の情報と記憶」
- 2-3) 11:10-11:50 森才人 (早稲田大学 J) 「オスマン朝期エジプトの州総督府：後期マムルーク朝宮廷空間の継承」
- 2-4) 13:00-13:40 岡本多久実 (中央大学 J) 「イスタンブルにおける 1660 年大火とそのユダヤ教徒に対する影響」
- 2-5) 13:50-14:30 秋葉淳 (東京大学) 「18 世紀オスマン朝法廷台帳に見る性暴力：法廷文書・街区共同体・執行権力」
- 2-6) 14:40-15:20 岩田和馬 (東京外国語大学 J) 「18 世紀イスタンブルのオドゥンカプにおける材木流通と密売の分析」
- 2-7) 15:30-16:10 村田七海 (東京外国語大学 J) 「近代オスマン帝国における国境管理制度：1911 年・1918 年パスポート法の検討」

第3部会 (会場 Venue : W201)

- 3-1) 09:30-10:10 横田貴之 (明治大学) 「イスラーム主義運動における「宗教の政治化」・「政治の宗教化」の新局面：エジプト・ムスリム同胞団の在外指導部に関する事例研究」
- 3-2) 10:20-11:00 高尾賢一郎 (中東調査会) 「サウジアラビアの今日の「変革」をめぐるイスラームの位置づけ」
- 3-3) 11:10-11:50 澤口右樹 (一橋大学) 「10月7日以降のイスラエル軍における宗教」

第4部会 (会場 Venue : W202)

- 4-1) 09:30-10:10 濱中麻梨菜 (東京大学 J) 「現代パレスチナとハンダラ：2000年代以降におけるメディア横断的登場と派生形」
- 4-2) 10:20-11:00 工藤幹太 (北海道大学 J) 「オリーブは語るができるのか？：パレスチナの食と記憶の政治生態学」
- 4-3) 11:10-11:50 中村友紀 (日本工営株式会社) 「パレスチナにおける紛争が農家の複合経営に及ぼす影響の定量的分析：農業復興と経営安定化に向けて」

第5部会 (会場 Venue : W308)

- 5-1) 09:30-10:10 谷憲一 (国立民族学博物館) 「シーア派言説のパラダイム・シフト？：革命後イランの政治的ノウハウの事例から」
- 5-2) 10:20-11:00 竹村和朗 (東京外国語大学) 「現代エジプトの離婚争いの構造：エジプト紙に掲載された離婚・扶養事案記事の分析から」
- 5-3) 11:10-11:50 嶺崎寛子 (成蹊大学) 「規範と現実のはざままで：親族付き合いの情報「操作」による関係調整の分析」
- 5-4) 13:00-13:40 吉村貴之 (早稲田大学) 「亡命アルメニア人とソヴィエト・アルメニアの「国民文化」～ミフラン・トゥマジヤンを例に」
- 5-5) 13:50-14:30 鈴木麻菜美 (京都大学) 「メディアによるイスラーム音楽発信の社会的役割：トルコにおけるアレヴィーの儀礼音楽の事例から」
- 5-6) 14:40-15:20 Yang Tianzaijie (Northwest University, J) “The Canonization of Shahnameh and the Remaking of Iranian Historical Memory under the Pahlavi Regime”
- 5-7) 15:30-16:10 永田瑞稀 (慶應義塾大学 J) 「展示される伝統：湾岸諸国の博物館における真珠産業文化の展示とその表象」

第6部会 (会場 Venue : W309)

- 6-1) 09:30-10:10 法島香月 (早稲田大学 J) 「エルドアン政権期の親クルド政党による「トルコ市民化」路線の変遷：政権や他野党との関係に注目して」
- 6-2) 10:20-11:00 Altaweel Rawia (JSPS Fellow, Chiba University), “Transitional Islamist Governance in Syria Post Assad: The Case of Hayat Tahrir al-Sham”
- 6-3) 11:10-11:50 渡邊駿 (日本エネルギー経済研究所／京都大学) 「君主制型権威主義体

- 制におけるテクノクラート内閣の利用」
- 6-4) 13:00-13:40 ザーケリー ゴドラトラー (明治大学 J) 「「イノベーション決定過程」からみる日本・イランにおける映画の受容」
- 6-5) 13:50-14:30 Nicholas Mangialardi (Williams College) “Bridging Silver Screens: The First Japanese Film Week in Egypt, 1966”
- 6-6) 14:40-15:20 黒田賢治 (国立民族学博物館) 「明治期における聖典クルアーン：翻訳書登場以前の知的系譜をめぐって」
- 6-7) 15:30-16:10 Zizhao Qiang (Northwest University / Kyushu University, J) “Japanese Intellectual Elite’s Views on the Ottoman Empire during the Meiji Period (1868-1912)”

第7部会 (会場 Venue : W408)

- 7-1) 09:30-10:10 岡崎弘樹 (亜細亜大学) 「シリアの女性作家が描く戦争：リアリスティックとイマジナルの間」
- 7-2) 10:20-11:00 中村菜穂 (大阪大学) 「イラン現代詩における戦争詩の主題について」
- 7-3) 11:10-11:50 村上武則 (中央大学) 「バローチ人起源譚『クルドガール・ナーメ』のクルド語翻訳とその受容」
- 7-4) 13:00-13:40 ダヌシュマン イドリス (立命館大学) 「ムスリムの社会統合におけるモスク説教の役割：日米比較の視点から」
- 7-5) 13:50-14:30 中町信孝 (甲南大学) 「阪神間地域のモスクとムスリム・コミュニティ」
- 7-6) 14:40-15:20 川本智史 (東京外国語大学) 「都立多磨霊園のムスリム墓地悉皆調査の報告」
- 7-7) 15:30-16:10 小島宏 (早稲田大学) 「コロナ禍中の英国におけるムスリム若者の慈善関連行動の宗教関連要因」

第8部会 (会場 Venue : W517)

- 8-1) 09:30-10:10 河野奈津美 (京都大学 J) 「ガラル (不確実性) を排除した保険を目指して：マレーシアのタカーフル (イスラーム型保険) を形成する理念とは何か」
- 8-2) 10:20-11:00 上山一 (釧路公立大学) 「スエズ運河が近代エジプト経済に及ぼした影響について」
- 8-3) 11:10-11:50 パホモフ・オレグ (東北大学) 「「正義の輪」としての超民族的存在：中東の国際関係理論へ向けて」
- 8-4) 13:00-13:40 小野仁美 (東京大学) 「チュニジア刑法第 230 条 (ソドミー法) とシャリーア」
- 8-5) 13:50-14:30 早矢仕悠太 (アジア経済研究所図書館) 「TEI を用いたイスラーム法学書を構成する学説分析の試み：10 世紀マーリク派法学書の礼拝章を素

材として」

8-6) 14:40-15:20 榮谷温子 (慶應義塾大学) 「クルアーンにおける hal 疑問文の用法」

8-7) 15:30-16:10 クレシ明留 (慶應義塾大学 J) 「アラビア語学習者の実態：日本に暮らすムスリムの宗教実践に与える影響」

7. 大会についての連絡先

日本中東学会第 41 回年次大会実行委員会事務局

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 7 丁目

北海道大学大学院文学研究院・末森晴賀研究室

E-mail : james2025hokkaido@let.hokudai.ac.jp

(第 41 回年次大会実行委員会)

アジア中東学会連合 (AFMA) 大会の報告

AFMA 第 15 回大会を終えて

2024 年 12 月 7 日 (土曜日)・8 日 (日曜日) の二日間にわたって、同志社大学今出川校地を会場として、アジア中東学会連合 (AFMA) の第 15 回大会が開催された。ご承知のとおり、AFMA は、本学会と韓国中東学会 (KAMES)、中国中東学会 (CAMES)、モンゴル中東学会 (MAMES) によって構成され、その大会は、原則として 2 年に 1 回の頻度で上記 4 学会が持ち回りで主催してきた。しかし、第 14 回の KAMES 主催の大会は、コロナ禍のために 1 年遅れで 2021 年にオンラインでの開催となり、会場に集まっての開催は、2018 年 9 月 8 日・9 日に CAMES の主催で北京で開かれた第 12 回大会以来となった。なお、今般の第 15 回大会は、本学会と同志社大学一神教学際研究センター (CISMOR) の共催であった。

AFMA 第 15 回大会は、大会全体のテーマである“Towards an Optimal Framework for Middle East Studies: Asian and Middle Eastern Perspectives in an Era of Global Challenges”の下に企画された Keynote Session から開始された。Keynote Session は、良心館 RY206 の会場とウェビナー配信のハイブリッド形式で行われ、会場とウェビナーと合わせて約 150 名の参加者を集めて 12 月 7 日の 15 時に始まり、本学会国際交流担当理事である森本一夫会員が司会を務め、保坂修司学会長の開会の辞、大会実行委員長を仰せつかった私、森山央朗からの歓迎の挨拶に続いて、2 名の登壇者がそれぞれ 60 分程度の講演を行った。最初に登壇したのは、Keynote Session のために招かれた Sajjad Rizvi 氏 (エクセター大学・英国) であった。Rizvi 氏は、哲学や歴史学の分野で古典シーア派思想などを研究しており、“Decolonising Islam: Resources and Practices”と題した今大会の基調講演においては、アラブ・中東の思想的資源を「マイノリティー・レポート」的な視点から取り上げる研究実践をとおして、我々のイスラーム研究を脱植民地化し、ヨーロッパ中心主義に対抗するといった単純な二元的対立を超えた多角的認識に向かう可能性について論じた。続いて登壇した末近浩太会員は、

デジタル技術や統計的手法を用いた中東政治・地域研究の紹介をとおして“Connecting the Dots: New Initiatives for Middle Eastern ‘Area Studies 2.0’”と題する講演を行った。講演の後には、登壇者と聴衆の間で活発な質疑が交わされ、森本会員の Closing Remarks によって Keynote Session は 17 時 30 分頃に終了した。

Keynote Session に続いて、18 時から 20 時にかけて懇親会が催された。懇親会では、そこに集った約 70 名を前に、来賓として招かれた KAMES、CAMES、MAMES の各代表がスピーチを行った。KAMES を代表したのは GWAG Soonlei 会長であった。CAMES の WANG Lincong 会長と MAMES の Lkhagvasuren Purev 会長は、ともにやむを得ぬ事情で参加できなかったため、CAMES からは TANG Zhichao 副会長が、MAMES からは Oyunsuren Samdandash 事務局長がそれぞれ会長に代わって挨拶を述べた。

大会 2 日目の 12 月 8 日は、9 時から 16 時 30 分にかけて、10 会場 15 分科会 (Session) に分かれて個人研究発表と企画パネルが行われた。当日のプログラムと各部会の概要は後段の記事に譲るとして、実行委員会が予想した以上に多くの発表・パネルの申し込みがあり、12 件の企画パネルと 42 件の個人研究発表がプログラムに載り、これに AFMA 構成学会からの来賓による発表 8 件が加わった。それらの企画パネル・個人研究発表の内容も多岐にわたり、歴史学や思想研究などの人文諸学の分野におけるものから、人類学や政治学、経済学などの社会科学の分野におけるもの、観光学やデジタル人文学に関する企画パネルも開かれた。中東のキリスト教に関する部会を組むことができたことも、中東と中東研究の宗教的多様性を示すものとして意義深いと言える。また、AFMA らしく、中東と東アジアとの関係・交流に関する 2 つの部会にも多くの興味深いパネルと個人研究発表が集められていた。

このように多くの企画パネル・個人研究発表が予定されたことから、当然、参加者数も多くなった。来賓・実行委員を除いて約 170 名が参加登録を行い、会場での参加を実行委員会が確認できたのは 124 名であった。参加者の多くが本学会の会員であったことは言うまでもないが、KAMES・CAMES の会員からは、来賓以外の一般参加者も複数認められた。さらに、AFMA の構成学会以外にも、アジアや中東、欧米の諸国・諸地域からの参加もあった。このように、多様な地域から多数の人々の参加を得られた背景としては、開催地が世界的観光地である京都であったことを無視することはできないであろう。しかしそれだけでなく、今回の大会では、参加資格を AFMA 構成学会の会員に限定せず、EURAMES Info Service のような中東研究者の世界的メーリングリストなどをとおして積極的に広報したことが奏功したとも言える。

多くの多様な参加者が集い、多彩な企画パネル・個人研究発表が数多く開かれた今回の AFMA 大会は、アジアの中東研究者の国・地域と分野を超えた連携の強化に貢献したことはもちろん、アジアの中東研究を中東や欧米に発信し、世界的な研究の進展の中に存在感を示すことでも一定の成果があった。しかしその一方で、運営上の反省点もある。一つは、大規模な国際学会ではよくあることかもしれないが、査読を通過しアブストラクトがプログラムに掲載されたにも関わらず、事前の連絡なしに欠席した発表者が複数いたことである。さらに大きな反省点は、予想以上に大規模になったために、プログラムの確定と

会場準備に予想以上の労力と時間がかかり、参加者への情報提供・更新が遅れ気味となってしまったことである。特に、開会直前での発表取消の申し出も複数あり、それに伴ってプログラムの一部が急遽変更されたことを、関係する一部の発表者が把握できずに、結果として予定していた発表を諦めざるを得ない事態も生じてしまった。このことに関しては、実行委員長として深くお詫び申し上げるとともに、実行委員会事務局とより緊密に連携し、発表者への連絡と注意喚起を徹底しておくべきであったと反省するところである。そうした今大会の反省を教訓とし、また今大会の成果を踏まえて、次回以降の AFMA 大会がより盛況でより意義深いものとなれば、今大会の運営委員会の責任を任された者として嬉しく思う次第である。

今大会を大過なく開催できたことは、本学会の国際交流担当理事をはじめ、実行委員会に参加いただいた会員各位の努力によるものである。また、例年の年次大会と同様に、会場の運営に当たっては学生・院生のアルバイトの協力を得た。今大会の準備と運営に関わってくださった方々に、特に、実行委員会事務局長を引き受けていただき、同志社大学と立命館大学の学生・院生を中心とする 20 名ほどのアルバイトを率いて会場運営に尽力くださった池端路子会員に、末筆ながらこの場を借りて御礼申し上げる。(森山央朗)

Program (Day 2: December 8, 2024)

Session 1: Middle East and Asia—Migration, Trade, and Cultural Exchanges

Panel: Changing Muslim Communities in East Asia

NISHIKAWA Kei (Ishinomaki Senshu University), “Comparing the Roll of Nahdatul Ulama in East Asia”

NARA Masashi (National Museum of Ethnology), “Changes in Taiwan’s Muslim Communities in Relation to the Middle East”

TAKAO Ken’ichiro (Middle East Institute of Japan), “Examining ‘Arabness’ among the Muslim Community in East Asia”

Commentator: UNNO Noriko (Osaka University)

Organizer: NISHIKAWA Kei

Individual

LEE Kyungsoo (Hankuk University of Foreign Studies), “Islamophobic Discourse and Fake News in Korea”

WANG Lincong (CAMES President), “Middle East Studies in China: Development and Characteristics”

Munkh-Ulzii Batmunkh (National University of Mongolia), “Impact of Geopolitical risk of Russia-Ukraine conflict on investor behavior in MENA region: The case of Saudi Exchange”

KIM Eunji (Hankuk University of Foreign Studies), “The Right to Education and Social Adaptation for Arab Immigrant Youth in Korea”

AMANO Yu (Japan Society for the Promotion of Science/The University of Tokyo), “Baghdadi Jews and the East: The Case of “Israel’s Messenger” (1904-1941) in Shanghai”

TSUNG Peichen (National Chengchi University), “Challenges and Strategies in Teaching Arabic Grammar in Taiwan: A Case Study at National Chengchi University”

Panel: Iran–Japan Economic Relations before the Islamic Revolution: Interplay of Business and Society

YOSHIDA Yusuke (Setouchi Vocational College of Tourism), “The Emergence of a Consumer Society in Iran: A View from the Trends in the Export of Miscellaneous Goods from Japan to Iran in the 1960s”

TSUBAKIHARA Atsuko (Ryukoku University), “The Making of Modern Life in Iran: Tracing Route and Meaning of Japanese Products”

YAMAGISHI Tomoko (Meiji University), “Presence of the Made-in-Japan in the Iranian Magazines”
Organizer: YAMAGISHI Tomoko

Session 2: Middle East and Asia 2—Interregional Economics and Politics

Panel: East Asia–GCC Relations: Emerging New Relations of Cooperation and Competition under Geopolitical Change

Steven M. Wright (The Institute of Energy Economics), “Navigating Geopolitical Risks: The Impact of Regional Disorder on GCC-East Asia Relations”

WANG Tingyi (Anwar Gargash Diplomatic Academy), “East Asian Economic Diplomacy towards the Gulf States”

HORINUKI Koji (The Institute of Energy Economics), “East Asian Soft Power Competition in the GCC States”

Discussant: SAITO Jun (Institute of Developing Economies-Japan External Trade Organization)

Organizer: HORINUKI Koji

Individual

LEE Kwon Hyung (Korea Institute for International Economic Policy), “How Can Korea and the GCC Upgrade Their Economic Cooperation in the Era of Energy Transition?”

ZHU Quangang (CAMES Deputy Secretary General), “East Asia–GCC Relations in a New Era: Opportunities and Challenges”

Oyunsuren Samdandash (MAMES Secretary General), “Implementation of Mongolia’s Foreign Policy in the Middle East (since 1990)”

SUN Degang (CAMES Vice President), “Peace Through Development: China’s Peace Initiative for the Middle Eastern Conflict Resolution”

NOH Dasol, SANG Hyunseong, PAIK Seunghoon (Dankook University), “A Study of the Implications of the Middle East’s Net Zero Strategies for Korea”

Elie Podeh (The Hebrew University of Jerusalem), “Israel and Indonesia: From Clandestine to Public Relations (1950–2024)?”

KIM Kangsuk, LEE Jisu (Hankuk University of Foreign Studies), “A Study on the Formation of Cordial Relations between Korea and Jordan during the Cold War”

Session 3: Social and Cultural Issues in the Middle East

Individual

SUMI Akiko (Kyoto Notre Dame University), “Muslim Women and Sports: Their Participation in International Sports Competitions and the Olympic Games”

SATO Marie (University of Tsukuba), Bayar Mustafa Sevdeen (University of Kurdistan Hewler), “Livelihood Diversity to Achieve a Sustainable Plural Society in the Ba’shiqra Sub-district of Northern Iraq”

KOO Giyeon (Seoul National University), ““Women, Life, Freedom”: The Role of Civil Disobedience and Global Solidarity in the Iranian Hijab Protests”

Session 4: “Heritage” in the Contemporary Middle East

Individual

YASUDA Shin (Takasaki City University of Economics), “Remaking the Islamic Middle East in the Globalized Era: Development of Global Islamic Heritage in Islamic Tourism Projects”

Panel: Heritage-making—A New Perspective for the Contemporary Middle Eastern Studies

TORIYAMA Junko (Ritsumeikan University), “From a Gender Norm to the Heritage: A Case of Moroccan Mom’s Boy”

YASUI Hiroshi (Doshisha University), “Rebranding Tradition?: Environmental Sustainability as a Global Norm and the Adaptation of Israel’s Kibbutz Agriculture”

OTSUBO Reiko (Tokyo University of Foreign Studies), “Creating Yemeni Authenticity in the Global Coffee Boom”

SAITO Tsuyoshi (Kobe University), “Reflections on Heritage-Making in a Contemporary Moroccan Context: The Case of Urban Redevelopment and a Traditional City Quarter in Rabat”

Organizer: TORIYAMA Junko

Session 5: Food Security in the Middle East

Panel: Revisited Food Insecurities and Vulnerable in the Middle East and North Africa—Two Cases from Egypt and Tunisia

IWASAKI Erina (Sophia University), “Coping with Food Insecurities in Egypt”

YAMANAKA Tatsuya (Komazawa University), “Structural Challenges to Food Security and Food Sovereignty in Tunisia”

IDO Yuko (Niigata University of International and Information Studies, “Re-examining One Year of the Black Sea Grain Initiative and Its Impacts on the Middle East and North Africa”

Organizer: IDO Yuko

Individual

Hyun-gyung Kim (Hankuk University of Foreign Studies), “The Impact of Maritime Infrastructure on Economic and Food Security Indicators in the Middle East and Africa: A Spatial Econometric Approach”

Session 6: Security and Conflicts in the Middle East

Individual

LIU Zhongmin (CAMES Vice President), “The Transformation of the Regional System in the Middle East”

Hassan Geon (Hankuk University of Foreign Studies), “Realist Perspectives on the 2023 Israel-Hamas Conflict: Security Imperatives and Power Dynamics”

HWANG Yuihyun (Seoul National University), “Competing Victimhoods: Palestinian and Jewish Refugees in Israel’s Right-wing Media’s Narratives”

CHOI Dooyoung Wicks (Hankuk University of Foreign Studies), “Examining the Interconnection Between Somali Piracy and Terrorism: Implications for Regional Security”

KIM Seonwoo (Hankuk University of Foreign Studies), “Intensified Political Division Based on Tribalism and Prolonged Civil War in Libya”

Session 7: Politics and Regimes in the Middle East

Panel: Reconsidering Regime Security in the Middle Eastern Monarchies and Republics

KIKKAWA Takuro (Ritsumeikan Asia Pacific University) and WATANABE Shun (The Institute of Energy Economics/Kyoto University), “Rebuilding the Kingdom: Jordan in the 1990–1991 Gulf Crisis and Its Consequences”

TSUI Chin-Kuei, “China’s Belt and Road Initiative and Gulf Countries’ Foreign Policies”

YAMAOKA Dai (Kyushu University), “Electoral Violence and Struggle for Power: A List Experiment in Iraq”

SUECHIKA Kota (Ritsumeikan University), “Electoral Fraud and Sectarian Oligarchy in Lebanon: Evidence from a Survey Experiment”

Organizer: SUECHIKA Kota

Individual

AHN Soyeon (KAMES Manager), “The Role of Civil Society in Political Development in the Middle East”

TANG Zhichao (CAMES Vice President and Secretary General), “Middle East Strategic Pattern under the Framework of Great Power Competition”

NAMIUCHI Shiun (Tokyo University of Foreign Studies), “De Facto State and Society Relationship in North-East Syria: DAARNES-CSOs Cooperation System”

YAMAOKA Haruki (Keio University), “Hizb ut-Tahrir’s Perceptions of Sects and Sectarianism”

Panel: New Frontier of Contemporary Egyptian Studies—Politics, Religion and Society

WELLS Sakura (Ritsumeikan University), “The Lands of the Franks: Rifā‘a al-Ṭaḥṭāwī’s Depiction of Bilād al-Ifranġ and its Function in Tkhliṣ al-Ibrīz fī Talkhīṣ Bārīz”

Mohamed ETTAWY (Ritsumeikan University), “Al-Azhar’s Role in Palestinian Reconciliation: The Potential of Religious Authority as a Mediator in the Hamas-Fatah Conflict”

YONEDA Yusaku (Ritsumeikan University), “Exploring Salafist Views on the Palestine Question: Egypt’s al-Da‘wa al-Salafiya and the ‘Gaza War’ after ‘October 7’”

Moderator & Commentator: YOKOTA Takayuki (Meiji University)

Organizer: YONEDA Yusaku

Session 8: Maghreb Studies

Panel: Navigating Central-Local Dynamics in the Maghreb—Challenges and Prospects

KIM Shinwoo (Institute of Developing Economies-External Trade Organization), “Higher Education and Regional Disparities in Tunisia”

TAKAHASHI Msahide (Middle East Institute of Japan), “Algeria’s Resource-Dependent Economy and Regional Disparities”

SHIRATANI Nozomi (Aichi Prefectural University), “Morocco’s Centralized Legacy and Regionalization Challenges”

Commentator: SADIKI Larbi (Japan Society for the Promotion of Science)

Organizer: SHIRATANI Nozomi

Individual

HAN Saerom (Sookmyung Women’s University), “Why Do Tunisians Support a Strong Man?: Thinking beyond Democracy and Authoritarianism”

Session 9: Turkish Studies

Individual

SUZUKI Yoshitaka (Japan Society for the Promotion of Science/Sophia University), “A Study on the Multi-cultural Coexistence in the Republic of Turkey: From the Perspective of Minority, Immigrants and Refugees Problems”

YANG Minji (Busan University of Foreign Studies), “The Turkish Refugee Crisis and Its Implications for Korea: Towards an Inclusive and Sustainable Framework”

Panel: Frontiers in Turkish Studies: President Erdoğan's 10 Years

IMAI Kohei (Institute of Developing Economies-External Trade Organization), “How Turkish Citizens Evaluated the Neo-Ottomanism Diplomacy: Results of the Original Public Opinion Survey in 2022”

IWASAKA Masamichi (Hokkai-Gakuen University), “Do the Military’s Economic Interests Influence Political Intervention?: A Study Based on the Case of Turkey”

SEKI Lungta (Kobe University), “The Dynamics of Criticism and Response: Turkey’s Diplomatic Sentiments Towards the EU”

Organizer: IMAI Kohei

Session 10: Studies on the Contemporary Gulf and Red Sea Regions

Individual

MURAKAMI Taskuya (Ehime University), “The End of Dynastic Monarchy?: Political Stability and Concentration of Power on Monarchs in the Gulf States”

KIM Joong-Kwan (Dongguk University), “Trade and Security Strategy amidst the Geopolitical Dynamics of the Red Sea Crisis”

Omar Bortolazzi (American University in Dubai), “Catalysts of Influence: Non-Traditional Security, Economic Transition Strategies, and Public Diplomacy Initiatives in the United Arab Emirates”

KANG Wongu (Hankuk University of Foreign Studies), “Qatar’s Attraction of Mega-events and the Formation of National Identity”

Session 11: Christianity in the Middle East

Panel: Christianity as the Gateway Between the Middle East and East Africa—Its Rise and Influence

TSUJI Asuka (Kawamura Gakuen Women’s University), “The Spread of the Veneration of the Virgin Mary from the Middle East to Ethiopia and the Agency of the Ethiopian Church”

TOBINAI Yuko (Morioka University), “From East Africa to North?: The Expansion of the East African Revival to Khartoum, Sudan”

MIYOKAWA Hiroko (Kyoto University), “Coptic Orthodox Mission in Africa: African Solidarity or Reproduction of North-South Problem?”

KUWAHARA Naoko (Iwate Prefecture University), “Managing Religious Diversity and Taming Religious Authorities”

Organizer: TSUJI Asuka

Individual

HA Hyun Jeong (Duke Kunshan University), “Living Sectarianism: The Experiences of Christian Minorities in Contemporary Egypt”

Session 12: Modern History and Literature in the Middle East

Individual

KWANG Sungil (Korea University), “The Origin of Religious Zionism and Oẓma Yehudit’s Far-right Ideology”

HAMANAKA Marina (The University of Tokyo), “Political Cartoon and Nationalism Changes in Representation in the Work of a Palestinian Cartoonist Nājī al-‘Alī: 1983–1987”

NAGASHIMA Iku (Japan Society for the Promotion of Science/The University of Tokyo) Mapping the Ottoman Defense Strategy: Garrison Locations and Troop Numbers of Ottoman Battalions (1882–1912)”

Session 13: Pre-Modern History and Literature in the Middle East

Individual

CHIBA Yudai (Princeton Theological Seminary), “Coins, Scripts, Nations: Realizing Imagined Boundaries in Hasmonean Identity Formation”

PARK Jeanam (Inha University), “The Great Pyramid of Khufu and Euclid’s The Elements”

LEE Heesoo (Hanyang University), “Kushnameh : The Medieval Persian Epics and Their Historical Context Relating to the Korean Peninsula”

JUNG Wootack (Hankuk University of Foreign Studies), “Foundation of Abbasid House of Wisdom and Consideration of Its Role”

KIMURA Fuga (The University of Tokyo), “How Islamic Law of War “Developed” in the Mamluk Dynasty?: The Case of Ibn Jamā‘a”

Panel: Navigating Ambiguities and Complexities—Hadith Scholarship Facing Confessional Boundaries

SU I-Wen (National Chengchi University), “Shu‘ba b. al-Ḥajjāj (d. 160/776) and Shi‘ism: His Sectarian Tendencies and Approach to Hadith Criticism”

MORIYAMA Teruaki (Doshisha University), “The Enemies of the Sunna within the Aṣḥāb al-Ḥadīth”

HIRANO Takahiro (University of Tsukuba), “The Concept of “Muwaththaq” in Shi‘i Hadith Studies”

Organizer: MORIMOTO Kazuo (University of Tokyo)

Session 14: Frontier of Digital Humanities in Middle Eastern and Islamic Studies in Japan

Panel: Frontier of Digital Humanities in Middle Eastern and Islamic Studies in Japan

SUNAGA Emiko (Tokyo University of Foreign Studies), “Initiatives and Challenges for Public Access to Digital Archives in the Middle East and Islamic Countries”

KURODA Ayaka (Kyoto University), “Creating a Digital Space of Islamic Discourse by Egyptian Lay Preachers: The Preliminary Analysis of Their Media Strategy on YouTube”

TANAHASHI Yukari (Kyoto University), “Recent Situation of HTR for Arabic Manuscripts: How Can Humanities Researchers Contribute?”

Commentator: CHIBA Yushi (Kyoto Sangyo University)

Organizer: KURODA Ayaka

Session 15: Human Mobilities in/from/to the Middle East

Individual

KHALILI Mostafa (Kyoto University), “Ambivalent Identities: Navigating National and Ethnic Belonging in the Revival of Azerbaijani Activism in Iran”

BOUBAKRI Hassen (University of Sousse), “Human Mobility in the MENA Region: Policies and Societies, or How the North African Countries Are Dealing with Transit Migration and EU Externalization of Borders Control?”

KONDA Kano (Kobe University), “International Students as Initiators of Islamic Revival: A Case of the Islamic Society in Contemporary Manchester”

分科会報告

Session 1 Middle East and Asia 1 Migration, Trade, and Cultural Exchanges (午前)

Changing Muslim Communities in East Asia

本パネルでは、近年東アジアにおいて増加するインドネシア人ムスリムやアラブ系ムスリムと在来のムスリム・コミュニティとの関係についての発表が行われた。登壇者は西川慧（石巻専修大学）、奈良雅史（国立民族学博物館）、高尾賢一郎（中東調査会）、コメントーターは海野典子（大阪大学）である。西川は、インドネシア最大のイスラーム団体であるナフダトゥル・ウラマを対象に、東アジア各国の事例を比較しながら、その共生における役割の違いについて論じた。奈良は、台湾を舞台に、中華系ムスリムと外国人ムスリムの関係を、中東諸国との外交関係の影響に着目して分析・報告した。高尾は、済州島や韓国ムスリム連合（KMF）の事例をもとに、韓国のムスリム・コミュニティにおけるアラブ人の存在感の大きさという特徴を指摘した。最後に、海野からは、東アジアのムスリム間に摩擦があるかどうか、またヨーロッパの事例との相違点について問いかけがあり、活発な討議が行われた。

（西川慧）

Session 1 Middle East and Asia 1 Migration, Trade, and Cultural Exchanges (午前)

The panel featured speaker: Dr. LEE Kyungsoo (Hankuk University of Foreign Studies/KAMES Secretary General) who discussed a speech titled “Islamophobia Discourse via Online Rumors in Korea :Focusing on the Rumor “How Lebanon, which was a Christian Country, became an Islamic Country?” and “Taharrush Game””.

In her speech LEE Kyungsoo discussed about People’s perception of Islam or Muslims in Korean society tends toward negativity, and how this negativity could be analyzed to be affected by provocative or sensational online rumors about Islam or Muslims and by disinformation, as well as how the disinformation, which is conveyed by connecting past incidents and claiming to be ‘facts’,

planted negative images online in the minds of Korean people who do not have many opportunities to encounter Islamic culture or Muslims in their daily life.

The audience raised a wide range of comments, including questions about Taharrush Game, Taliban, and the Korean public behavior towards Islamic and Hindu population in South Korea.

Note: Please note that Dr. WANG Lincong (Institute of West-Asian and African Studies, Chinese Academy of Social Sciences/CAMES President), “Middle East Studies in China: Development and Characteristics” speech was cancelled. (Munkh-Ulzii Batmunkh)

Session 1 Middle East and Asia 1 Migration, Trade, and Cultural Exchanges (午後)

The panel was moderated by Dr. GWAG Soonlei of Hankuk University of Foreign Studies (KAMES), and featured four speakers: Munkh-Ulzii Batmunkh (MAMES), KIM Eunji (KAMES), and AMANO Yu (The University of Tokyo), and TSUNG Peichen (National Chengchi University). In Munkh-Ulzii's presentation, based on the war between Russia-Ukraine affects regional and world financial markets, the report discussed how the Geopolitical risk of Russia-Ukraine conflict on investor behavior in case of Saudi Exchange. In the following presentation by KIM Eunji, focused on how Korean society perceives Arab immigrant youth and their families, with a focus on their rights to education and social integration. The third presentation by AMANO Yu examines how the distant Baghdadi-Jewish community in Shanghai maintained its connection to its original homeland, by analyzing newspaper articles, particularly those about Iraq and its Jewish community. The final presentation by Peichen focused on how to foster a dynamic and inclusive learning environment conducive to mastering the complexities of Arabic grammar. The audience raised questions on a range of topics including the war and financial markets, Muslim youth migration, the history of Baghdadi-Jewish, and teaching Arabic grammar, making for a very insightful panel. (GWAG Soonlei)

Session 1 Middle East and Asia 1 Migration, Trade, and Cultural Exchanges (午後)

Iran-Japan Economic Relations before the Islamic Revolution; Interplay of Business and Society

本パネルでは、3名の発表者がテヘラン大学の教員と行ってきた共同研究の成果の一端を示した。共同研究では、イランの消費社会への移行に日本製品が貢献し、またそれらの品が日本観の構築を強化した、という問題設定を共有し、欧米との関係からイランの近代化を論じる傾向に一石を投じようと試みてきた。

まずは吉田会員が、日本の通商広報と貿易年表に基づいて、イランへの雑貨類の輸出が1960年代から増加し始めた様相を説明し、雑貨(日用品)に焦点をあてる意義を論じた。次いで椿原会員が、陶器ディナーセットの受注生産・輸出ルート・流通過程の変遷をたどり、現地調査の成果もまじえて「日本タイプ」の食卓用品受け入れの背景を説明した。最後に山岸が、イランで最大の読者のいた雑誌「ザネ・ルーズ(今日の女性)」に掲載されて広告から、「かつら」を例に日本の中小業者のユニークな努力を示した。参加者は非常に限定されていたが、熱心な聞き手で、発表者と参加者の意見交換はパネル内の質疑応答

時間におさまらないほどであった。(山岸智子)

Session 2 Middle East and Asia 2 Interregional Economics and Politics (午前)

セッション2では東アジア・湾岸関係に関する5本の報告が並んだ。最初の3本は“East Asia-GCC Relations: Emerging New Relations of Cooperation and Competition under Geopolitical Change”という企画パネル報告となり、Steven Wright氏から“Navigating Geopolitical Risks: The Impact of Regional Disorder on GCC-East Asia Relations”、WANG Tingyi氏から“East Asian Economic Diplomacy towards the Gulf States”、堀抜功二氏から“East Asian Soft Power Competition in the GCC States”というテーマでそれぞれ報告が行われた。湾岸諸国を取り巻く安全保障環境や各国の経済戦略の変化を受け、東アジア諸国もその変化に合わせた関係構築が求められていることが明らかになった。以上の報告に対して、ディスカッサントの齋藤純氏から東アジアと競争関係にあるインドとの関係性や、湾岸諸国の東アジアへのアプローチなど、影響の双方向性について問われた。企画パネル報告に続き、LEE Kwon Hyung氏から“How Can Korea and the GCC Upgrade Their Economic Cooperation in the Era of Energy Transition?”と題する報告が行われ、韓国・湾岸間の経済関係の発展について検討された。今後については、AIやデータセンター、EVなどエネルギー転換に関わる新しい分野での関係発展が示唆された。最後はZHU Quangang氏による“East Asia-GCC Relations in a New Era: Opportunities and Challenges”と題する報告が行われ、東アジアと湾岸諸国の関係について政治、経済、安全保障など様々な分野から包括的なレビューが行われた。そのうえで、地政学的な大国間競争など、両者が将来的に抱える複数の課題について検討が加えられた。本セッションを通して多数の質問が寄せられており、中東・湾岸研究における東アジア諸国の役割について本格的な議論が進むことが期待される。(堀抜功二)

Session 2 Middle East and Asia 2 Interregional Economics and Politics (午後)

The panel was moderated by Dr. ZHU Quangang from the Chinese Academy of Social Sciences (CAMES), and featured five speakers: NOH Dasol (Dankook University), Oyunsuren Samdandash (MAMES), SUN Degang(CAMES), Elie Podeh (The Hebrew University of Jerusalem), and LEE Jisu (Hankuk University of Foreign Studies). NOH's presentation analyzed the implications of the Middle East's net zero strategies for Korea. Oyunsuren's presentation discussed the Mongolia's foreign policy in the Middle East, based on the foreign policy concept of Mongolia. The presentation by SUN pointed out that outside powers had diverse visions of achieving peace in the Middle East, and China advocated a development-focused peace initiative. Podeh's presentation drew primarily on Israeli archival material, and delineated the various phases and features of Israeli-Indonesian relations. The final presentation by LEE analyzed how diplomatic relations between South Korea and Jordan improved during the Cold War period. The audience raised a wide range of questions and provided a lot of comments, including those about China's Middle East policy and the prospect of the normalization between Israel and Saudi, making for a wonderful panel. (ZHU Quangang)

Session 3 Social and Cultural Issues in the Middle East

本セッションでは、現代中東の社会・文化にかかわる3つの報告が行われた。

第1報告の鷺見朗子氏（京都ノートルダム女子大学）は、ムスリム女性のオリンピックや国際スポーツ大会への参加の問題を取り上げ、現代におけるグローバル化の進展の中で、イスラーム教徒が多数派を占める国々におけるジェンダー、文化、宗教、政治がいかに交錯するかを検討した。第2報告の佐藤麻理絵氏（筑波大学）とバヤル・ムスタファ・セヴェィーン氏（クルディスタン・ヘウレル大学、報告には不参加）は、多宗教・多民族の共存するイラク北部のバアシーカ地区について、オリーブ栽培・利用をはじめとする多様な生業が、この地域における持続可能な複合的社会をいかに実現させているのかを解明した。第3報告のク・ギヨン氏（ソウル大学）は2022年のイランにおけるヒジャーブ着用をめぐる抵抗運動を検討し、女性を中心となったこの運動がイランの市民社会の歴史において有する重要性を指摘するとともに、イラン外からの運動へのグローバルな連帯の事例についても紹介した。

三報告とも扱う地域やテーマは異なるものの、中東地域の「いま」を解明しようとするものであり、最前線の研究の息吹が感じられた。早朝のセッションでもあり、参加者が少なかったことが残念であった。（小澤 一郎）

Session 4 “Heritage” in the Contemporary Middle East

「現代中東における『遺産 (heritage)』」セッションでは、一件の個人発表と一組のパネル発表が行われた。発表者以外の参加者は、大学院生を中心とした8名から13名程度（セッション中に変動あり）で、若い世代からの関心の高さが垣間見えた。

「グローバル時代のイスラーム的中東のリメイクング」と題した個人発表を行った安田氏は、観光を原動力とした「グローバルなイスラーム遺産」の創造が、近年中東諸国にも新たな文脈をもたらしている状況を指摘した。続く「遺産形成—現代中東研究における新たな視座」と題したパネルでは、「遺産」化が抱える問題について4名が報告した。鳥山は国家による「遺産」専制のジェンダー的影響を、また齋藤氏は遺産創生事業から取り残された地元コミュニティの問題を、さらに保井氏はサステイナビリティ概念を用いたキブツの脱歴史・政治化について検証した。最後に大坪氏は、グローバルな主体によるイエメンを置き去りにした「イエメン」コーヒーの創造について報告した。（鳥山純子）

Session 5 Food Security in the Middle East

中東・北アフリカ地域は、近隣地域での長期化した戦争の影響を受けているが、以前より、度重なる「アラブの春／革命」の影響やコロナ禍による不安定な情勢が続いてきており、この地域の特に脆弱層が直撃を受けている。パネル・セッション5は、「Revisited food insecurities and vulnerables in the Middle East and North Africa: two cases from Egypt and Tunisia」という企画テーマで3名の報告がなされた。まず岩崎報告は、エジプトの家計調査のマイクロ・データを分析し、食糧価格の高騰等がエジプトの各世帯にどのような影響を及ぼしているのか、各世帯での食糧補助金の効果や価格高騰への対処策に関する詳細な分析が報告

された。次に山中報告では、チュニジアにおける食糧安全保障の構造的課題として植民地時代からの産業構造と土地所有制度の歪みを指摘し、さらに低い付加価値しか生み出せない国内産業や不安定雇用、農業部門の脆弱性が穀物や飼料、精製油等の高い輸入依存へと繋がってきたことを分析した。最後に井堂報告では、ウクライナ侵攻後に締結された「黒海穀物合意」の1年間での輸送貨物品目・量・輸送先地域/国のデータを確認し、世界のサプライチェーンの劇的な変化や中東・アフリカ地域の輸入元の多角化の試み等があったことを指摘した。ディスカッサントとして、チュニジア人地理学者ハッサン・ブーバクリー教授が3報告にコメントを行い、活発な質疑応答がなされた。本セッション後、単独の口頭発表が Hyun-gyung Kim 氏（韓国外国語大学）によりなされた。テーマが中東・北アフリカ地域の海運インフラと経済発展、食糧安全保障の関係に関する計量分析であったため、企画セッション終了後も同じメンバー（日本、韓国、中国、チュニジアの参加者15名程）が会場に留まり、多くの質問が寄せられ、有意義な会となった。（井堂有子）

Session 6 Security and Conflicts in the Middle East

本セッションは、「中東における安全保障と紛争」という共通タイトルで、3名の報告者が発表した。第一報告者のリュウ・ゾンミン氏（上海外国語大学、CAMES 副会長）は、中東における地域システムの変革（トランスフォーメーション）についてその実相について報告した。第二報告者のハッサン・ゲオン氏（韓国外国語大学）は、2023年のイスラエル・ハマスの間の紛争について、現実主義的アプローチでパワーダイナミクスの現状分析をし、和平に必要な要件について論じた。第三報告者のファン・ユーフン氏（ソウル国立大学）は、パレスチナ人とイスラエル人避難民がイスラエルのメディア報道でいかなるナラティブのもとに展開したかを分析し、2つの避難民の被害者意識がいかに競合しているかを論じた。第四報告者のチョウ・ドーヨン・ウィクス氏（韓国外国語大学）は、域内の安全保障上、ソマリア沖での海賊活動をテロリズムの概念と連動して捉える意義を指摘した。第五報告者のキム・ジョンウ氏（韓国外国語大学）は、リビア内戦の継続と部族主義の連動性を定量分析によって説明した。質疑応答では活発な議論が展開された。（中西久枝）

Session 7 Politics and Regimes in the Middle East（午前）

本セッションの“Reconsidering Regime Security in the Middle Eastern Monarchies and Republics”と題したパネル（責任者：末近）では、5本の報告がなされた。吉川・渡辺報告では、ヨルダンにおいて、1991年の湾岸戦争の発生がその後の権威主義的統治の強化につながる転換点になったことを、当時の歴史資料の分析を通して論究された。Tsui 報告は、中国の「一帯一路」政策が湾岸諸国の政権の権力維持に作用している実態を明らかにするものであった。続く山尾報告と末近報告は、それぞれイラクとレバノンにおける選挙が抱える問題（暴力と不正）について、実験的手法を用いた最新の世論調査結果に基づく実証研究の成果を示した。最後の Ahn 報告は、中東における市民社会の役割、特にその政治的変化をもたらすための潜在力について詳論するものであった。以上の5本の報告からは、中東の君主

制諸国と共和制諸国にそれぞれ見られる regime security の戦略や市民の認識の相違が鮮やかに浮き彫りにされた。(末近浩太)

Session 7 Politics and Regimes in the Middle East (午後)

Session 7 covered a diverse range of topics, including "Middle East Strategic Pattern under the Framework of Great Power Competition" by TANG Zhichao, Vice President and Secretary General of CAMES; "Quasi-State and Society Relationship in North-East Syria: DAARNES-NGOs Cooperation System" by NAMIUCHI Shiun from Tokyo University of Foreign Studies; and "Hizb ut-Tahrir's Perceptions of Sects and Sectarianism" by YAMAOKA Haruki from Keio University. The presentations were insightful, sparking vibrant and engaging discussions. Notably, Session 7 featured two young scholars currently pursuing their Ph.D. degrees, further highlighting the session's role in motivating and supporting their academic development. (Soyeon Ahn)

Session 7 Politics and Regimes in the Middle East (午後)

New Frontier of Contemporary Egyptian Studies: Politics, Religion and Society

エジプトに関する本パネルでは、明治大学の横田貴之氏を司会・討論者にむかえ、ウェルズ桜氏、Mohamed Ettawy 氏、米田優作の3名が登壇した。ウェルズ報告は、19世紀エジプトを代表する知識人の一人であるリファア・タフターウィーに焦点を当て、彼の代表作である『パリ要約のための黄金の精錬』の序文の綿密な分析を通じ、タフターウィーの知的目標と、彼による「フランクの地」という用語の用法をめぐる戦略的な再解釈の様相を明らかにした。つづく Ettawy 報告は、アズハルに焦点を当て、同機関が宗教的権威としてのみならず中東地域における重要な政治アクターとして地域紛争の調停を行ってきた事実に着目し、ファタハとハマース間の対立和解を事例に、その仲介努力や戦略を論じた。最後の米田報告は、現代エジプト最大規模の草の根型サラフィー主義組織であるダアワ・サラフィーヤとその政党部門のヌール党に焦点を当て、「10月7日」以降に再び前景化した「パレスチナ問題」にたいする彼らの言説を詳細に分析した。横田氏からは、示唆に富んだ質問やコメントのほか、各研究が近・現代エジプト研究にどのような貢献をもたらさうか、という問いかけがなされた。20名以上が参加した会場からも複数の質問やコメントが得られ、非常に活気あるパネルとなった。(米田優作)

Session 8 Maghreb Studies

本セッションではまず、マグリブ諸国の中央-地方関係に関するパネル発表が行われた。歴史的・文化的の共通点を多く持ちながら、独立後に異なる政治体制を築き上げるに至ったマグリブ3か国は、独立以降どのような中央-地方関係を展開し、またどのような課題があるのかという問題意識のもと、3名の報告者がそれぞれ社会・経済・政治という視点から発表を行った。金報告では、チュニジアにおける教育の地域間格差が検討された。高橋報告では、エネルギー政策及び財政政策からアルジェリアの中央-地方関係が考察された。最後に白谷報告では、モロッコにおける地方分権化政策と2016年の北部地域の大規模反

体制デモの関係が分析された。続くハン発表では、サイド現大統領下のチュニジアにおける権威主義体制への揺り戻しに関して、①研究者による現象の解釈と②国民による同大統領への支持と「民主主義」の理解に乖離があることが指摘された。パネル討論者のサディキ氏を含め、セッションを通じて現代マグリブ諸国に関する活発な議論がなされ、今後のマグリブ研究における国際的ネットワークの可能性が検討された。(白谷望)

Session 9 Turkish Studies

本セッションでは、トルコの内政と外交に関して、合計4つの報告(個人報告1つ、パネル報告3つ)が行われた。鈴木報告は、トルコの移民、難民の統合過程について、トルコ系移民、クルド人、シリア人を事例に包括的に論じた。トルコ研究のフロンティアとして、主にエルドアンが大統領に就任した2014年以降に主に焦点を当てたパネルでは、まず今井がトルコの「新オスマン主義」的な外交に関するトルコ国民の考えを独自の世論調査から明らかにした。岩坂報告はトルコ軍のクーデタおよびクーデタ未遂の原因として経済的インセンティブが独立変数として考えられるかを検討した。関報告ではトルコとEUの関係について、2013年ゲズイ公園事件、2016年のクーデタ未遂事件、2019年のトルコの東地中海での資源採掘の3つを事件に着目し、トルコ外務省のウェブサイト上の一次資料を計量テキスト分析の手法によって検討した。それぞれの報告にフロアからも質問が出され、活発な議論が行われた。(今井宏平)

Session 10 Studies on the Contemporary Gulf and Red Sea Regions

本セッションは、現代湾岸地域と紅海沿岸地域を扱った(司会:保坂)。当初、発表者4名を予定していたが、プログラム最終版でセッションの時間が変更になったことで誤解が生じ、1名が発表時間に間に合わず、2名が不参加となったため、発表者は1名だけとなった。また、そのためもあり、聴衆も数名だけと寂しいものであったが、結果的には少数精鋭で活発な議論が行われた。

唯一の発表者、韓国外国語大学のKANG Wonguは、近年、湾岸諸国が競うように開催している巨大イベントについてカタルの事例を取り上げ、ジャジーラ放送設立からワールドカップ開催等に至るまで、一貫してカタルの政治・文化政策の一環であり、カタルのアイデンティティーを確立するためのものであったとした。このテーマはすでに多方面で議論されているテーマでもあったので、カタルが追及する「カタル性」とは何なのかを中心に、参加者とのあいだで中身の濃い議論が展開された。(保坂修司)

Session 11 Christianity in the Middle East

本セッションには企画パネルと個人報告1件があった。パネルは20世紀東アフリカにおけるキリスト教の復興と北アフリカや中東とのつながりを検討することを目的としており、まず辻は中世エチオピアにおける聖母マリア崇敬の拡大をエジプトや中東とのつながりを中心に紹介し、次に飛内氏は20世紀東アフリカにおけるリバイバル運動の伝播をハルツームにおける南スーダンからの避難民の信仰生活から検討した。三代川氏はケニアに

おけるコプト正教会の活動を通して、キリスト教信仰におけるエジプトとサハラ以南のアフリカとの関係を考察した。桑原氏は比較法制史の立場から西洋から移入された宗教的多様性に関するリベラル／近代立憲主義とその要素を、現地のアクターがどのように解釈してきたかということ进行分析した。Ha 氏(個人報告)は *Living Sectarianism: The Experiences of Christian Minorities in Contemporary Egypt* と題し、アラブの春以降のエジプトにおけるコプトの置かれた状況について事例報告を行った。全体として、キリスト教を軸とし現代の中東や東アフリカの状況を分析する興味深い報告を多数得たセッションとなった。(辻明日香)

Session 12 Modern History and Literature in the Middle East

近現代史に関連する本セッションは3本の報告を予定していたが、1本のみとなった。濱中麻梨菜氏(東京大学大学院総合文化研究科博士課程)による報告は、ナージー・アル=アリー(1936-87)による政治漫画を事例として、パレスチナ人の創作活動が有した意味の広がり提示した。アル=アリーは、抵抗するパレスチナ難民を象徴するハンダラというキャラクターをつうじて、パレスチナ人のナショナル・アイデンティティ構築に寄与したと見なされる。しかしそのみならず、ナショナリズムを超えて、他の国々をも巻き込む闘争の必要を表現した点に、彼がパレスチナ人社会で影響力を持ちえた理由を見出せることが指摘された。報告の後、アル=アリーの作品の解釈や、本人の社会的立場について質疑応答がなされた。(堀井 優)

Session 13 Pre-Modern History and Literature in the Middle East (午前)

第13部会の午前の部では、前近代の中東の歴史や文化にかかわる4本の報告があった。第一報告者のCHIBA Yudai (Princeton Theological Seminary)氏は、紀元前2～前1世紀のハスモン朝が発行した貨幣をある種のメディアに見立て、そこに刻まれたヘブライ文字の字体とアイデンティティとのかかわりについて論じた。第二報告者のPARK Jeanam (Inha University)氏は、クフ王のピラミッドのデザインに現れる幾何学的比率とエウクレイデスらの論考を比較し、ヘレニズム科学の淵源が古代エジプトにさかのぼる可能性について検討した。第三報告のLEE Hee Soo (Hanyang University)氏は、11世紀のペルシア語叙事詩 *Kushnameh* に現れる新羅を指すと思われる *Be/Basila* について論じ、その背景として朝鮮半島へのサーサーン朝亡命者の存在を指摘した。最後に第四報告者 JUNG Woo Taek (Hankuk University of Foreign Studies)氏は、9世紀バグダードの「知恵の館」について、既存研究に対するテキストマイニングの手法なども用いて論じた。古代エジプトからイスラーム期まで幅広い時代の報告がそろい、中東地域の歴史的深みを感じさせるセッションとなった。(佐藤健太郎)

Session 13 Pre-Modern History and Literature in the Middle East (午後)

第13部会午後の部は、個別発表1本と企画パネル一つから構成されていた。KIMURA Fugaの“*How has the Islamic Law of War “Developed” in the Mamluk Sultanate?*”は、シャーフ

イー派の大カーディー、バドゥルッディーン・イブン・ジャマーアの当該主題に関する議論を取り上げ、その特徴を考察した。企画パネル“Navigating Ambiguities and Complexities”は、ハディース伝承と伝承者批判に従事したムスリム学者たちが、宗派帰属という、自己認識と他者規定が複雑に絡みあう問題とどのように切り結んでいたのかを検討した。SU I-Wen、MORIYAMA Teruaki、HIRANO Takahiro がそれぞれ提示した具体的な事例は、この主題の豊かな可能性を提示するものであった。イスラーム的知的伝統を対象として東アジアで展開する先端的なインテレクチュアル・ヒストリー研究に触れることができた午後であった。(森本一夫)

Session 14 Frontier of Digital Humanities in Middle Eastern and Islamic Studies in Japan

本パネル・セッションでは、日本のイスラーム研究や中東地域研究におけるデジタル人文学への関心の高まりを背景として、3本の発表が行われた。須永恵美子(東京外国語大学)は、湾岸諸国のデジタル・アーカイブ化の現状を中心に、イスラーム研究におけるデジタル人文学の動向全般を論じ、フィールドワークによる現地理解が変わらず重要であることを指摘した。黒田彩加(京都大学)は、俗人説教師によるソーシャルメディアの活用に着目し、YouTubeの説教動画と視聴者の反応を分析する手法を提示した。棚橋由賀里(京都大学)は、機械学習を用いたアラビア語写本の翻刻における課題を、マグリブ書体を事例として検討した。自動翻刻システム Transkribus の HTR (手書きテキスト認識) エンジンの変更により、精度が低下している旨の報告があった。これらの発表に対し、コメンテーターである千葉悠志(京都産業大学)からは、従来の ICT 技術の応用とデジタル人文学との本質的な差異についての問題提起があった。(黒田彩香)

Session 15 Human Mobilities in/from/to the Middle East

第 15 部会は、中東における人の移動に関連した個別発表 3 本から構成された。Mostafa Khalili (Kyoto University) は “Ambivalent Identities: Navigating National and Ethnic Belonging in the Revival of Azerbaijani Ethnic Activism in Iran” と題された発表を行い、イランのアゼルバイジャン系エスニック・グループのアンビバレントなアイデンティティの有り様と、運動の興隆と活性化に関し考察を行った。続く Hassen BOUBAKRI (University of Sousse) の報告 “Human Mobility in the MENA Region: Policies and Societies, or How the North African Countries Are Dealing with Transit Migration and EU Externalization Processes?” は地中海のチュニジアやリビアから地中海を渡る難民やサハラ以南アフリカからチュニジアを経由して地中海を渡ろうとする難民の実態と EU や北アフリカ、西アフリカの国々の政策について検討した。KONDA Kano (Kobe University) の報告 “International Students as Initiators of Islamic Revival: A Case of the Islamic Society in Contemporary Manchester” は、マンチェスター大学における Manchester Islamic Society を事例に、ムスリム学生によるイスラーム的な知と実践の創出とそこにおけるアラブ諸国からの女子留学生の役割を考察した。エスニック・アイデンティティや北アフリカとサハラ以南アフリカの人の移動、ムスリム留学生などをめぐって活発な議論がなされた。(岩崎えり奈)

決算

| 収入 | | 支出 | |
|---------------|------------|---------------|------------|
| 学会予算からの開催費 | ¥2,700,000 | アルバイト謝金 | ¥363,091 |
| 同志社大学学会開催補助金 | ¥200,000 | ポスター制作・印刷費 | ¥44,410 |
| 懇親会会費 | ¥399,000 | プログラム・要旨集制作費 | ¥77,000 |
| アルバイト謝金錯誤振込返金 | ¥18,435 | ノベルティ制作費 | ¥33,048 |
| 預金利息 | ¥625 | Zoom ウェビナー使用費 | ¥16,499 |
| / | | 託児所運営委託費 | ¥40,470 |
| | | 文具費 | ¥4,002 |
| | | 茶菓・飲食費 | ¥172,929 |
| | | 懇親会費 | ¥520,000 |
| | | 来賓・講演者招聘接遇費 | ¥1,265,532 |
| | | アルバイト謝金錯誤振込 | ¥18,600 |
| | | 振込手数料 | ¥7,260 |
| 収入合計 | ¥3,318,060 | 支出合計 | ¥2,562,841 |
| 収支差額 | ¥0 | 学会予算への戻入 | ¥755,219 |

『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会報告

1. 今年度発行号について

40-2号は投稿締切を延長した関係で編集が遅れておりましたが、2025年3月中旬には刊行され、順次会員のみなさまのお手もとに届く予定です。

2. 来年度発行号について

① 41-1号

こちらも投稿締切を延長したため、審査・編集作業が遅れています。通常は原則として7月刊行ですが、来年度は刊行が例年より遅れる可能性があります。会員のみなさまには御迷惑をおかけしますが、なにとぞ御理解くださいますようお願いいたします。

② 41-2号

昨年同様、投稿締切を試験的に一ヶ月延長いたします。

【41-2号】延長後の締切日：2025年7月1日（火）

※ 投稿締切日については現在「『日本中東学会年報』投稿規程」において12月1日および

び6月1日と定められていますが、年次大会における発表と論文投稿の関係(両者間に適切な期間を設ける)等に鑑み、将来的に規定(締切日)を一部変更することも検討中です。ただ、締切に関する変更は査読審査・編集・刊行工程への影響が大きいため、その実施については試行を経ながら、今後、慎重に検討していきたいと考えています。

※ みなさまの多様な研究成果をぜひ御投稿ください(欧文投稿も大歓迎です)。AJAMESには論文・研究ノート・書評論文・資料紹介・研究動向・書評・博士論文要旨(英語)など、さまざまなジャンルがあります。また例年どおり、欧文特集企画も募集しております。企画をお持ちの方は、直接御投稿いただくか、編集委員長まで御相談ください。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、投稿規程・原稿執筆要領の最新版は、AJAMES最新号のほか、学会サイトにも掲載されておりますので、投稿前にそれらを御確認ください。投稿された原稿が執筆要領にしたがっていない場合、修正・再提出をお願いすることがありますので、この点、特に御留意ください。

3. 博士論文要旨(英語)について

AJAMESでは、会員による中東関連の博士論文要旨(英文)を掲載しています。最近博士論文を提出された会員の方は、ぜひ御投稿ください。

4. AJAMESのバックナンバーについて

科学技術振興機構の電子ジャーナルの無料公開システム J-Stage 上で公開しています。刊行後、1年を経た論文(現在、39-1号掲載分まで)はこちらで閲覧できますので、御活用ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ajames/-char/ja>

5. 第10回日本中東学会奨励賞について

ただいま、第10回日本中東学会奨励賞の選考を進めています。

本誌に関するお問い合わせ先は編集委員長の交代に伴い、4月から変更になります。メールアドレスは変更ありませんので、こちらに御連絡ください。

『日本中東学会年報』編集委員会
E-mail: ajames-editor@james1985.org

(福田義昭 AJAMES 編集委員長)

寄贈図書

【単行本】

国立民族学博物館五十周年史編纂部会『語り合い ひらける世界——みんぱく五十年の歩み』国立民族学博物館、2024年。

柳橋博之監修『イスラーム法研究入門』成文堂、2025年。

【逐次刊行物・ジャーナル・その他】

『季刊アラブ』No. 190、日本アラブ協会、2025年1月

『Danah』No.246、日本クウェイト協会、2025年2月

(小澤一郎 事務局長)

連絡先をご存じないですか

下記の会員の方々は、連絡先が不明なため、学会からのお知らせなどをお届けすることができないでおります。連絡先をご存じの方は、学会事務局までご連絡いただけますよう、ご面倒でもご本人にお伝えいただければ幸いです。

イブラヒム・ワリード・ファルーク 岡部 友樹 北川 明 後藤 信介
座喜 純 住吉 大樹 高安 海翔 ターリク フセイン ハカミー
築地 孝治 ナスル・ゴラムレザ ババアリ 梓晴 林田 花枝 平川 大地
ファトヒー モハンマド 藤井 菜津子 藤本 あずさ 三尾 真琴
三橋 咲歩 宮治 美江子 ヤズィード ナーセル 横田 吉昭
Abuhajir Rehab A. Abhu-Hajjar Iyas Salim HOSNIEH Elham Layla Saleh
Mohamad Haidar Reda Teeba M. Mohammed Abdulati

(小澤一郎 事務局長)

事務局より

事務局の所在する京都では、長かった冬もようやく終わりの気配が見え始め、コートなしでも外出できるような気候になってまいりました。

この間、事務局では第21期評議員・理事選挙の実施をお手伝いしました。結果、無事第21期の評議員・理事の顔ぶれが決定いたしました。選挙を主導していただいた選挙管理委員の皆様には、改めてお礼申し上げます。

第20期事務局の任期も残り2週間余りとなりました。2023年4月より2年間、長かったような気もしますが、振り返ってみるとあっという間だったとも思います。この間、事務局長である私の方で不手際が多く、ご迷惑をおかけすることも多くあったかと思いますが、第20期評議員・理事をはじめ、会員の皆様のご協力もあり、何とか任を全うすることができました。心より感謝いたします。

2025年4月からは第21期の事務局に業務を引き継ぎます。皆様には来年度以降も引き続き日本中東学会の運営にご協力いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

(小澤一郎 事務局長)

日本中東学会ニューズレター 第176号

発行日 2025年3月31日

発行所 日本中東学会事務局

日本中東学会事務局

〒603-8577

京都府京都市北区等持院北町 56-1

立命館大学文学部 小澤一郎研究室内

E-mail: james@james1985.org

<https://www.james1985.org/>

郵便振替口座：00140-0-161096

(日本中東学会)

ゆうちょ銀行口座：〇一九店(当) 0161096

(ニホンチュウトウガッカイ)